



# 神戸市淡河地区との連携事業について（自治体・NGOとの協力による歴史資料保全事業）

村井, 良介

---

**(Citation)**

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 2(平成15年度事業報告書):69-71

**(Issue Date)**

2004-03-31

**(Resource Type)**

report part

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002190>



## 神戸市淡河地区との連携事業について

神戸大学文学部地域連携センター研究員 村井良介

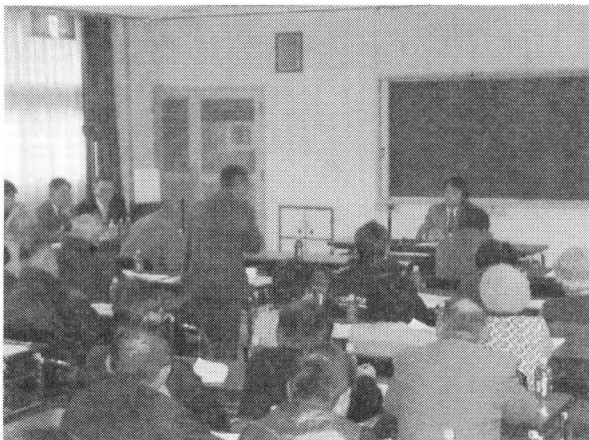
### 1. 概要

今年度から神戸市北区の淡河地区に関して、地元および神戸市との連携事業が開始された。淡河地区では近年、淡河城跡の近くに道の駅ができたことで、淡河城をはじめ地域の歴史に対する関心が高まっているとのことで、この地域に関わる歴史について考え、またwebページなどを通じて発信していくことを企図して、連携事業をおこなうことになった。

現在具体的に進められているのは、歴史セミナー、地区内の史料調査、webページ作成のためのコンセプト研究である。これらの事業は、地元が神戸市のパートナーシップ事業として、助成金を得ており、その一部としておこなわれている。また、神戸市教育委員会により、今後の淡河城跡の発掘調査に向け、試掘調査もおこなわれている。

以下、地域連携センターが直接携わっている事業に関して、その経過と成果、今後の課題について述べる。

### 2. 淡河の歴史セミナー



淡河の歴史について考えるための企画として、「淡河の歴史セミナー」と題する講演会を催した。第1回は7月5日に神戸市教育委員会の丹治康明氏を講師として「淡河本町周辺の史跡」というテーマでおこなった。丹治氏は、淡河本町周辺での発掘成果について、縄文時代から中世まで論じた。第2回は1月25日に大手前大学の小林基伸氏を

講師として「有馬氏系図」を考える」というテーマでおこなった。小林氏は、近世に成立した「有馬氏系図」は、一時期淡河城主となった近世大名有馬氏を、有馬本宗直系とする作偽があり、実際には庶流家であったことを実証的に論じた。

今後もこうした講演会を継続していく予定であり、地域の歴史を考える機会としていきたいと考えている。

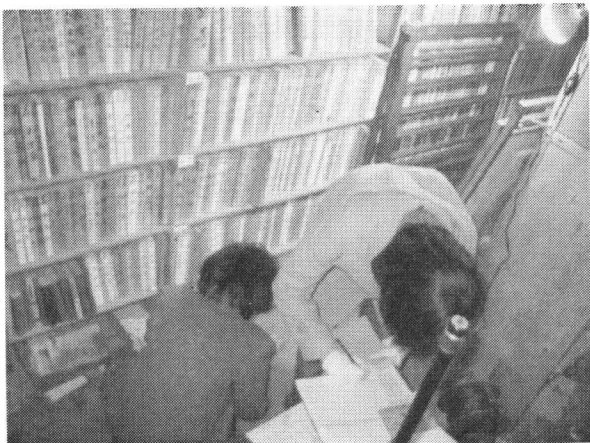
### 3. 淡河地区の史料調査

地域に関わる歴史を考え、また発信していくにあたっては、地区内に残された史料の調査が必須であると考え、地元の協力を得て、史料調査をおこなうことになった。

まず郷土史家であった故下田勉氏が収集した史料について調査をおこなった。下田家には、生前下田勉氏が使用していた「楓鈔軒」と名付けられた建物があり、そこに同氏が、刊行されている史料集などから、主として播磨に関わる史料を筆写し、人名・地名などテーマ別に分類して、本の箱に入れたものが、およそ3000箱程度、棚に並べられている。これについては、箱単位で目録を作成した（目録の一部を参考として別頁に掲げる）。また、刊本からの筆写のほかに若干の原史料が入っている場合があったため、その所在を確認した。このほかに、建物内には近世から近現代までの原史料があり、これらについては、箱の中にあつた原史料と合わせて、写真撮影と目録作成を軸とした調査に着手した。来年度はこの原史料の調査を本格化させる予定である。また、これらが保管されている建物は湿気が多く保存状態が良好とは言い難いので、今後史料の保存措置も課題となる。

下田家の調査以外では、歳田神社所蔵の文書群について調査に着手した。淡河地区はこれまで悉皆的な史料調査がおこなわれたことがなく、所在確認調査が必要である。このため淡河町自治協議会の広報紙を通じ、町内の各家に史料がないかどうか確認していただけるよう呼びかけた。これに対し、歳田神社に史料があるとの連絡をいただい

た。これを受けて歳田神社の史料の確認をおこなった。歳田神社には羽柴秀吉の発給した制札2枚があったほか、近世・近代の主として土地に関わる史料が多数あった。特に秀吉制札の文化財指定も念頭に置いての、本格的な調査は来年度の課題となろう。



#### 4. webページのコンセプト研究

この連携事業では、様々な事業の成果を広く発信していくことも重要な課題である。その方法の一つとして今後webページの作成をおこなうことになった。今年度は当面、どのような形でwebページを持ちうるのか、そのコンセプトについて検討した。尼崎市の富松地区では同様の地域連携事業により、web上に仮想の博物館である「富松城歴史博物館」が開設された。こうした取り組みを参考にしつつ、淡河ではどういった形のwebページ作りが可能なのかを考えた。史料調査の成果の反映や、今後おこなわれるであろう淡河城跡の発掘調査成果、あるいは淡河町に屋号や祭礼などについての仮想博物館のような形が可能性として検討された。無論今年度はまだ具体的な内容にまで踏み込めないため、特に史料調査の成果の公開を意識して、簡単なwebページの骨組みを作成し、今後の検討の材料とすることとした。

#### 5. 今後の課題

現在、下田家と歳田神社の史料について調査に着手しているが、それなりの量があるため、調査には時間を要しそうだ。今後また新たに史料の存在が確認される可能性もあり、鋭意調査を進めていきたい。また、調査が進展すれば、今度はその活用も重要な課題となろう。

また、こうした連携事業がおこなわれるきっかけでもあった淡河城跡については、今後発掘調査が進められれば、様々な知見が得られるであろう。淡河城についてはこれまで十分な研究がなされていない状況であるので、webページのコンテンツの一つの核として、淡河城をめぐる研究も、今後課題となってくるだろう。

また、地元の要望をどのように形にしていくのかは、大きな課題である。特にwebページに関しては、大学側が様々な知識やノウハウを提供するにしても、継続的な管理・更新が必要となる以上、地元の主体的な取り組みが、今後より一層重要となる。地元でこれに関わる人々が、何を知りたいのか、どのようなことをしたいのか、何を発信したいのかといった、地元の主体的な意志を、どのように実現していくのかが、まさに連携事業の理念から課題となる。それは、今後の歴史セミナーのテーマ設定などとも関わる問題である。

今後、さらに地元、神戸市との連携を強め、こうした課題に答えていきたい。

淡河下田家楓鈔軒資料目録(抜粋)

棚	段	番号	表題	備考
N	⑤	26	資料 製塩	
N	⑤	27	資料 ハニワ	
N	⑤	28	資料 古代紙	
N	⑤	29	資料 硯・スズリ	
N	⑤	30	資料 金印	
N	⑤	31	資料 進化	
N	⑤	32	資料 美囊郡	
N	⑤	33	資料 美囊郡条里制	
N	⑤	34	資料 美囊郡内朱印黒印	
N	⑤	35	資料 平家村	
N	⑤	36	(書類2点?)	⑤-1~8の上の隙間
N	⑤	37	(新聞紙1点)	⑤-30~34の上の隙間
N	⑥	1	(冊子・書類11点)	
N	⑥	2	資料 淡河村寺堂 萩原	
N	⑥	3	資料 淡河村社祠 木津	
N	⑥	4	資料 淡河村寺堂 本町	
N	⑥	5	資料 淡河村社寺 淡河	原文書コピー1
N	⑥	6	資料 淡河村社祠 勝尾	
N	⑥	7	諸地区年表	
N	⑥	8	資料 淡河村寺堂 勝尾	文書カ1
N	⑥	9	資料 淡河村社祠 本町	絵図1
N	⑥	10	資料 淡河村寺堂 南僧尾	近代文書2、中世文書の情報あり、高雲寺
N	⑥	11	資料 淡河村寺堂 北僧尾	
N	⑥	12	資料 淡河村社祠 北僧尾	絵図1、破損大
N	⑥	13	資料 淡河町北畑	絵図1、少々焼け
N	⑥	14	資料 淡河村寺堂 木津	近代文書1
N	⑥	15	資料 淡河町中山	
N	⑥	16	資料 淡河町行原	
N	⑥	17	資料 淡河町東畑	
N	⑥	18	資料 淡河町神田	
N	⑥	19	資料 淡河町神影撫石 石峯寺	
N	⑥	20	(冊子1点)	
N	⑥	21	淡河村誌近代資料	近代文書8
N	⑥	22	大庄屋安福家日記続	
N	⑥	23	資料 淡河町野瀬	絵図3
N	⑥	24	保存民家	
N	⑥	25	資料 淡河庄村材(ママ)々庄屋表	
N	⑥	26	資料 家島	
N	⑥	27	(書類1点)	
N	⑦	1	資料 明石大橋	
N	⑦	2	(書類1点)	
N	⑦	3	資料 東播用水	
N	⑦	4	(書類1点)	
N	⑦	5	資料 人物	
N	⑦	6	資料 農村舞台	
N	⑦	7	資料 山陽自動路	
N	⑦	8	資料 嘉吉長祿神爾奪与	
N	⑦	9	資料 地震	
N	⑦	10	航空	
N	⑦	11	兵庫県自然保護協会	
N	⑦	12	北区のふるさと再発見シリーズ	
N	⑦	13	資料 古写真	
N	⑦	14	(紙箱1点)	
N	⑦	15	論行原稿	
N	⑦	16	資料 宮本武蔵研究会	